



2022年5月26日
鉄道友の会

鉄道友の会 選定

2022年ブルーリボン賞・ローレル賞決定

ブルーリボン賞 (第65回)

- 京浜急行電鉄 1000形 1890番台

ローレル賞 (第62回)

- 東京地下鉄 17000系・18000系
- 京阪電気鉄道 3850形

鉄道友の会(会長 須田 寛、会員約3,000名)は、京浜急行電鉄1000形1890番台をブルーリボン賞(最優秀車両)に、また、東京地下鉄17000系・18000系および京阪電気鉄道3850形をローレル賞(優秀車両)に選定しました。

賞の趣旨、選定車両の解説・選定理由などは別紙をご覧ください。

京浜急行電鉄 1000 形 1890 番台

京浜急行電鉄 1000 形 1890 番台は、2001 年より導入された新 1000 形の 20 次車として投入された車両です。

車体は、片側 3 扉の 18m 級ステンレス製（先頭部のみ普通鋼製）で、側扉部・側窓部のインナーフレーム化や外板継ぎ目のレーザ突合せ溶接工法の採用により、凸凹が無くフラットで滑らかな表面に仕上げられ、同社伝統の赤＋クリームホワイトで塗装されています。安全対策として、オフセット衝突・側面衝突時の車体変形を最小限に抑える構造となっています。

客室内は従来の 1000 形のデザインを踏襲し、白系を基調とした明るい空間にまとめられています。腰掛はロング／クロスの自動切り替え式が同社で初めて採用されました。一般席が赤系柄、優先席が青系柄の抗菌・抗ウイルス仕様で、全席に AC コンセントが装備されています。乗務員室の後位には展望席として固定クロスシートが配されていますが、この箇所には幅が極小ながらも採光用の側窓が設置されています。またサービス度の向上を図るべく、車内トイレ設備（洋式ユニバーサル仕様と男性用の 2 カ所）が導入されました。そのほか先頭車には車いすスペース、中間車にはフリースペースが設置され、ユニバーサルデザインも積極的に採り入れられています。

機器類は、制御装置がハイブリッド SiC 2 レベルVVVF インバータで、PG センサレスベクトル制御が行われます。主電動機は全閉外扇式の採用によりメンテナンス性の向上が図られています。制動方式は回生ブレーキ併用全電気指令式ブレーキで、編成全体でネットワーク制御される方式となっています。機器類などの重量バランス・配置の見直しにより、編成構成は 2M2T に改められましたが、従来通り先頭車は電動車となっています。台車は乾式ゴム入り円筒案内軸箱支持方式のボルスタ式車体直結空気ばね台車で、乗り心地や走行性能など同社に最適化された従来型となっています。

1000 形 1890 番台は、L/C 腰掛や車内トイレ設備など同社で初めてとなる設備を設え、通勤・通学のみならず観光・イベントなど新たな車両用途を模索しているほか、最新水準の機器類を積極採用しつつ実績ある安定した仕様も踏襲しています。チャレンジングな姿勢と堅実性を兼ねそろえたトータルバランスに優れた車両であり、多くの会員の支持を集めたことから、ブルーリボン賞に選定しました。



ブルーリボン賞 京浜急行電鉄 1000 形 1890 番台

写真：鉄道友の会

東京地下鉄 17000 系・18000 系

東京地下鉄 17000 系と 18000 系は既存の車両の後継として導入されたもので、17000 系は有楽町線・副都心線用、18000 系が半蔵門線用です。2021 年 2 月に 17000 系が、8 月には 18000 系が就役しました。両形式とも、車体構造や搭載機器には共通点が多く、座席幅の拡大や全車両へのフリースペースの設置、ホームと車両の間の段差低減など、客室設備・バリアフリー設備のレベルアップが行われています。さらに、消費電力量を削減した機器を採用し、安全・安定輸送の取り組みとして脱線検知装置の導入や、TIMA（車両情報監視・分析システム）の導入による搭載機器の遠隔監視などが行われています。

外観のデザインでは、既存の車両のイメージを受け継ぎながらもアレンジが行われ、17000 系では丸形の前部／後部標識灯を、18000 系では直線的な前部／後部標識灯を採用し、走行路線のラインカラーに基づいた車体色とすることで個性を出しています。両形式とも、車体にはアルミニウム合金製オールダブルスキン構造を採用の上、前面・オフセット衝突に対する対策を強化、使用するアルミニウム合金の種類を極力統一してリサイクルにも配慮されています。

車内は、座席や吊手、床にラインカラーを用いた色使いとし、座席の表地には消臭・抗菌・抗ウイルス加工が施されたほか、荷棚や座席端部の袖仕切、貫通戸には強化ガラスを使用しています。さらに、17 インチワイド液晶式画面による車内情報表示器やセキュリティカメラも備え、放送設備の音質向上も行われています。また、運転台の計器類は 2 つのモニタ画面により表示されるほか、17000 系ではワンマン運転設備を搭載、18000 系も ATO（自動列車運転装置）に対応した構造です。

編成形態は 4M6T（17000 系 8 両編成は 4M4T）で、搭載機器では、素子に炭化ケイ素（SiC）を使用した制御装置と永久磁石同期電動機（PMSM）を採用、補助電源装置にはハイブリッド SiC 素子を使用した上、並列同期／休止運転方式を採用し、消費電力量の削減を図っています。さらに、17000 系の 8 両編成は主電動機の極数を 6 極から 8 極とし、高効率化が行われました。ブレーキシステムでは、編成統括ブレーキ制御方式を導入し、回生ブレーキの最大活用や雨天時の滑走抑制制御が行われています。また、台車はモノリンク式ボルスタ付台車を引き続き採用しています。

17000 系と 18000 系は得票数も多く、サービス設備や搭載機器のレベルアップを積み重ねた点や、2 系列を基本仕様の共通化による取扱い、メンテナンスの共通化を最大化するとともに、投入線区の独自性の両面を実現したことを評価し、ローレル賞に選定しました。



ローレル賞 東京地下鉄 17000 系・18000 系 ※写真は 17000 系

写真：鉄道友の会

京阪電気鉄道 3850 形

京阪本線に特急列車が本格的に運行されるようになったのは 1950 年 9 月 1 日のことです。その後、特急色、鳩マーク（特急列車標識）、車内テレビ、空気ばね台車をつぎつぎに採用しました。そのようななかで、開始から今日まで継続的に装備してきたのが転換クロスシートです。1927 年の 1550 型（のちの 600 型）に起源を求めることができ、1971 年の先代 3000 系では自動転換装置を開発しています。

2017 年のプレミアムカー8550 形は社会的な要望でもある手軽な有料座席指定サービスを京阪間に定着させました。新造プレミアムカー3850 形はこのサービスをさらに拡充させています。

車体はセミダブルスキン構造のアルミニウム合金製で、連結を行う妻面にオフセット衝突対策を施しています。金色帯は金属蒸着マーキングフィルムで、高い質感イメージを演出しています。

車内ではエントランスで電球色ダウンライトがスモーク色調の霞模様仕切ガラスを淡く浮かびあがらせている一方、客室では反射式白色室内灯が側天井の光拡散付き化粧板を鮮明に映えさせ、高級感のあるコントラストを醸しだしており、座席下部の床のカーペットには枯山水紋様を用いています。また、天井内部には空調装置に加えて、微粒子イオン発生装置と強制換気装置を搭載しました。

伝統の転換クロスシートを昇華させた回転式リクライニングシートは 2 列+1 列の 3 列配置で、1040mm 間隔で並びます。各座席のフィット感を向上させ、冬季の快適な乗車を実現すべく、京都寄り車端部 4 席の背もたれには着席者により操作可能なヒータも付き、居住性が 8550 形からさらに進化しています。また、側窓の LCD 式出入口部表示器は複層ガラスの層間に液晶ディスプレイを内蔵しており、鉄道車両の窓用ガラス（車外向け）として世界で初めて採用しています。

京阪特急列車は転換クロスシートを備え、時代に呼応した幾多の細やかなサービスを提供してきました。その系譜を引き継ぎ、風雅な趣のある 3850 形プレミアムカーでは、通勤・観光のあらゆるシーンにおいて瀟洒で心地よい移動空間を楽しむことができます。その完成度の高さを評価してローレル賞に選定しました。



ローレル賞 京阪電気鉄道 3850 形

写真：鉄道友の会

ブルーリボン賞・ローレル賞とは

我が国の鉄道車両の進歩発展に寄与することを目的に、鉄道友の会が毎年1回、前年1月1日から12月31日までの間に日本国内で営業運転を正式に開始した新造および改造車両から選定している賞です。



ブルーリボン賞

ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員会が選んだ候補車両に対する会員の投票結果に基づき、選考委員会が審議して最優秀と認めた車両を選定します。



ローレル賞

ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員会が選んだ候補車両に対する会員の投票結果を参考にして、選考委員会が審議して優秀と認めた車両を選定します。

ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員会

鉄道車両に精通するベテランの鉄道友の会会員で構成します。
なお、今年の選考委員は9名、候補車両は5系列・形式でした。

添付資料

過去のブルーリボン賞・ローレル賞選定車両一覧

本件につきましてのお問い合わせは下記宛にお願いいたします。

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-5-12 ABEビル 9階

鉄道友の会（本部事務局） 担当：鹿山

TEL & FAX 03-5215-0305

URL <https://www.jrc.gr.jp/>

■ ブルーリボン賞・ローレル賞 選定車両一覧 (その1)

年度	ブルーリボン賞	ローレル賞
1958	小田急電鉄 3000形	(制定なし)
1959	日本国有鉄道 151系	(制定なし)
1960	近畿日本鉄道 10100系	(制定なし)
1961	日本国有鉄道 キハ81系	京阪神急行電鉄 2000系・2300系
1962	名古屋鉄道 7000系	日本国有鉄道 401・421系
1963	近畿日本鉄道 20100系	京王帝都電鉄 3000系
1964	小田急電鉄 3100形	京王帝都電鉄 5000系
1965	日本国有鉄道 0系	山陽電気鉄道 3000系
1966	名古屋鉄道 キハ8000系	札幌市交通局 A830形
1967	近畿日本鉄道 18200系	長野電鉄 0系
1968	日本国有鉄道 581系	該当車なし
1969	日本国有鉄道 EF66形	東京都交通局 6000形
1970	西武鉄道 5000系	大阪市交通局 60系
1971	該当車なし	名古屋鉄道 モ600形
1972	日本国有鉄道 14系 (寝台車)	帝都高速度交通営団 6000系
1973	日本国有鉄道 183系	小田急電鉄 9000形
1974	京成電鉄 AE形	西日本鉄道 2000形
1975	該当車なし	日本国有鉄道 24系25形 (寝台車)
		黒部峡谷鉄道 EH形
1976	阪急電鉄 6300系	日本国有鉄道 キハ66・67形
		東京急行電鉄 8500系
		富士急行 5000系
1977	名古屋鉄道 6000系	上信電鉄 1000系
		札幌市交通局 6000形
1978	近畿日本鉄道 12400系	東京都交通局 新7000形
		神戸市交通局 1000形
1979	近畿日本鉄道 30000系	京浜急行電鉄 800形
		日本国有鉄道 オハ50系
1980	江ノ島鎌倉観光 1000形	名古屋鉄道 100系
		北総開発鉄道 7000形
		富山地方鉄道 14760系
1981	小田急電鉄 7000形	日本国有鉄道 117系
		長崎電気軌道 2000形
1982	箱根登山鉄道 1000形	福岡市交通局 1000系
1983	京浜急行電鉄 2000形	日本国有鉄道 200系
		熊本市交通局 8200形

■ ブルーリボン賞・ローレル賞 選定車両一覧 (その2)

年度	ブルーリボン賞	ローレル賞
1984	日本国有鉄道 14系700番代	京阪電気鉄道 6000系
1985	名古屋鉄道 8800系	帝都高速度交通営団 01系
		樽見鉄道 ハイモ180形
1986	伊豆急行 2100系	南海電気鉄道 10000系
		日本国有鉄道 100系
1987	北海道旅客鉄道 キハ83・84形	北大阪急行電鉄 8000系
		近畿日本鉄道 7000系
		四国旅客鉄道 キハ185系
1988	小田急電鉄 10000形	仙台市交通局 1000系
1989	近畿日本鉄道 21000系	九州旅客鉄道 783系
1990	東日本旅客鉄道 651系	西日本旅客鉄道 221系
		四国旅客鉄道 2000系
1991	東武鉄道 100系	東日本旅客鉄道 251系
		大阪市交通局 70系
1992	小田急電鉄 20000形	東日本旅客鉄道 253系
		九州旅客鉄道 キハ200系
1993	九州旅客鉄道 787系	東海旅客鉄道 300系
		日本貨物鉄道 EF200形
1994	該当車なし	日本貨物鉄道 DF200形
1995	南海電気鉄道 50000系	北海道旅客鉄道 キハ281系
1996	九州旅客鉄道 883系	日本貨物鉄道 コキ71形
		東海旅客鉄道 383系
1997	該当車なし	北海道旅客鉄道 731系
1998	西日本旅客鉄道 500系	熊本市交通局 9700形
		叡山電鉄 900形
		近畿日本鉄道 5800系
1999	西日本旅客鉄道／東海旅客鉄道 285系	スカイレールサービス 200形
2000	東日本旅客鉄道 E26系	広島電鉄 5000形
		東海旅客鉄道/西日本旅客鉄道 700系
		東日本旅客鉄道 209系950番代
2001	九州旅客鉄道 885系	名古屋鉄道 モ800形
		近畿日本鉄道 3220系・5820系・9820系
2002	東日本旅客鉄道 E257系	西日本旅客鉄道 キハ187系
2003	近畿日本鉄道 21020系	岡山電気軌道 9200形
		鹿児島市交通局 1000形
2004	四国旅客鉄道 5100形	該当車なし

■ ブルーリボン賞・ローレル賞 選定車両一覧 (その3)

年度	ブルーリボン賞	ローレル賞
2005	日本貨物鉄道 M250系	九州旅客鉄道 800系
		長崎電気軌道 3000形
2006	小田急電鉄 50000形	名古屋鉄道 2000系
		愛知高速交通 100形
		広島電鉄 5100形
		福岡市交通局 3000系
2007	富山ライトレール 0600形	東日本旅客鉄道 E233系
		西日本鉄道 3000形
2008	東海旅客鉄道／西日本旅客鉄道 N700系	東日本旅客鉄道 キハE200形
		東日本旅客鉄道 E721系／仙台空港鉄道 SAT721系
2009	小田急電鉄 60000形	豊橋鉄道 T1000形
		京阪電気鉄道 3000系
2010	東日本旅客鉄道 E259系	近畿日本鉄道 22600系
2011	京成電鉄 AE形	東京地下鉄 16000系
2012	東日本旅客鉄道 E5系	日本貨物鉄道 HD300形900番代
2013	東京地下鉄 1000系	該当車なし
2014	近畿日本鉄道 50000系	東日本旅客鉄道 E6系
		福井鉄道 F1000形
2015	東日本旅客鉄道 E7系／西日本旅客鉄道 W7系	東日本旅客鉄道 EV-E301系
		箱根登山鉄道 3000形
2016	阪神電気鉄道 5700系	東日本旅客鉄道 HB-E210系
		四日市あすなろう鉄道 新260系
2017	九州旅客鉄道 BEC819系	東日本旅客鉄道 E235系
		えちごトキめき鉄道 ET122系1000番代
		静岡鉄道 A3000形
2018	西日本旅客鉄道 35系客車	東日本旅客鉄道 E353系
		東武鉄道 500系
		鹿児島市交通局 7500形
2019	小田急電鉄 70000形	相模鉄道 20000系
		叡山電鉄 デオ730形「ひえい」
2020	西武鉄道 001系	四国旅客鉄道 2700系
2021	近畿日本鉄道 80000系	東日本旅客鉄道 E261系
		東海旅客鉄道 N700S